立教大学ジェンダーフォーラム　第88回ジェンダーセッション

フェミニズム／フェミニティと「成熟」

――運動と理論をつなぐために

フェミニズム関連書籍は今日多く流通するようになり、セクシュアルマイノリティに関する知見もより共有されるようになりました。またSNSによって手軽に情報や感情の共有をしやすくもなり、運動が拡がりやすくもなっています。その一方、個々人が声を上げたあとの展開、具体的な運動をどうやっていくかなどの方法論の定立や、バックラッシュが予想されるなかでどのように批判を折り込みさらに運動を展開させていくかなどの理論の更新など、さまざまな課題があるように思います。
本講演では、批評家・西村紗知氏とライター・住本麻子氏とが、江藤淳の「成熟」というキーワードを軸に、過去の運動の事例を引き合いに出しつつ、「運動」の問題点を分析し、これをどう「理論」へ移行させていくかを模索します。

ハイブリッド開催

日時

2023.1.21（土）
14:00 - 15:30

対面会場：池袋キャンパス7号館7102
オンライン配信：ZOOMウェビナー
お申し込みはこちら　（どちらも要申込）
http://s.rikkyo.ac.jp/e08fa02
定員 500名　申込締切 1月18日（水）

（参加無料）

講師

西村（にしむら）　紗知（さち）氏　×　住本（すみもと）　麻子（あさこ）氏

西村　紗知　氏
1990年鳥取県生まれ。批評対象は主に音楽。東京学芸大学教育学部芸術スポーツ文化課程音楽専攻（ピアノ）卒業。東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻(美学)修了。論考に「椎名林檎における母性の問題」(『すばる』2021年2月号／第4回すばるクリティーク賞)、「グレン・グールドに一番近い場所」(『すばる』2021年9月号)、「お笑いの批評的方法論あるいはニッポンの社長について」(『文學界』2022年1月号)、「7月のフモレスケ・ノート――「内なる声」に向かって」(『文學界』2022年9月号)、「林光《原爆小景》に寄せて」(批評誌『ラッキーストライク』第2号）など。webちくまにて「愛のある批評」を連載中。

(C)『週刊読書人』

住本　麻子　氏
1989年福岡県生まれ。早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース修了。文芸誌を中心に、インタビュー、対談構成、書評や批評の寄稿などをおこなっている。論考に、「A太郎のベタ、『ガロ』の影……さよなら。――近藤聡乃『A子さんの恋人』論」(『ユリイカ』2021年3月号)「とらえ損ねた撩乱――瀬戸内寂聴と岡本かの子」(『ユリイカ』2022年3月臨時増刊号)「傍観者とサバルタンの漫才――富岡多惠子論」(『群像』2021年7月号)「「とり乱し」の先、「出会い」がつくる条件――田中美津『いのちの女たちへ』論」(『群像』2022年7月号)、「雨宮まみと「女子」をめぐって」(『中央公論』2022年8月号）など。

主催・お問い合わせ　立教大学ジェンダーフォーラム
https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/　e-mail: gender@rikkyo.ac.jp　tel: 03-3985-2307